

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	平成29年度第1回河内長野市都市計画審議会 立地適正化計画策定部会
2 開催日時	平成29年8月18日(金) 午後3時00分から
3 開催場所	河内長野市役所 3階 301会議室
4 会議の概要	次の案件について検討を行った。 (1) 立地適正化計画について (2) 河内長野市の現況と課題について
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0名
7 問い合わせ先	(担当課名) 都市づくり部都市創生課 (内線545)
8 その他	

* 同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

平成29年度第1回河内長野市都市計画審議会 立地適正化計画策定部会

日時：平成29年8月18日（金）

午後3時～午後5時

場所：河内長野市役所 301会議室

次 第

1. 開会
2. 副市長あいさつ
3. 委員紹介、事務局紹介
4. 部会長の選出、あいさつ
5. 会議の公開について
6. 議題
 - (1) 立地適正化計画の策定について
 - (2) 河内長野市の現況と課題について
質疑等
7. 閉会

出席者

青木 淳英
伊勢 昇
井戸 清明
嘉名 光市
水野 優子

欠席者

なし

1. 開会

2. 副市長挨拶

開会にあたり、ごあいさつを申し上げます。

本日は、河内長野市都市計画審議会立地適正化計画策定部会の開催にあたり、各委員の皆さまにおきましては、大変ご多忙のところご出席いただき誠にありがとうございます。

本部会は、本市の都市計画審議会の部会として初めて設置されたものでございまして、立地適正化計画の策定について調査、研究をお願いするものでございます。

ご存じのとおり、本市では平成12年をピークに人口減少が続いており、右肩上がりの時代の都市計画から、人口減少時代に正面から向き合う都市計画への転換機を迎えております。

立地適正化計画は、この転換期において、これからのまちづくりの方針を定める重要な計画でございます。

本市が20年後、30年後に、「住みたい、住み続けたい」と選ばれるまちであり続けるための計画を、しっかりと策定してまいりたいと考えております。

委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

3. 委員紹介、事務局紹介の紹介

委員5名の内、出席者5名（欠席者なし）。

2分の1以上の出席により会議は成立

4. 部会長の選出、あいさつ

○部会長の選出

河内長野市都市計画審議会部会運営細則第3条第1項の規定により、部会長は部会に属する委員のうちから都市計画審議会の会長が指名することとなっている。あらかじめ、岩本会長から、嘉名委員を部会長とする指名があった。

○部会長あいさつ

ただいま、部会長にご指名いただいた嘉名です。本日は午前中から市内を回ってききましたが、本市の特徴としてアイランド型に住宅団地が形成された地形や、自然に近いという特性を実感しました。また、思っていたよりもまだ空き家は少なく、市の活性化に向けてまだまだ魅力を活かす余地があると感じました。とはいえ、中長期的には人口減少が進む中で、都市の形を改めて考え直す必要がありますので、委員の皆さまからは忌憚のないご意見をいただきながら、河内長野市版の立地適正化計画のあり方を考えていけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

5. 会議の公開について

公開とする。資料も傍聴者への閲覧を許す。議事録について、発言者の氏名公表可。ただし、個人情報扱う場合など非公開とすべき案件が発生したときには、会議の非公開を当部会に諮る。

6. 議題

立地適正化計画の策定について（資料5 説明）

河内長野市の現況と課題について（資料6 説明）

【質疑応答】

伊勢委員：1つ目に、現況資料の図3-1について、バス路線に乗合タクシー「くすまる」と「コミュニティバス」のルートを入れてはどうか。また、図4-3の商業施設は、最近、JAの販売施設「あすかてくるで」、道の駅が立地し、バス路線も変更された。今後、商業施設の集積を見ながら、都市機能の拠点を検討する必要があるのでは、商業施設を追加してはどうか。

事務局：コミュニティバスとくすまるの路線についても示すこととする。商業施設についても、生鮮食料品の供給をしている施設について、追加する。

伊勢委員：将来人口推計について質問したいが、「子ども女性比は河内長野市全体の平均を用いている」ということであるが、その場合、市内のどの地域も同じように減少する傾向になるのではないかと。人口推計も大事であるが、過去からの人口動態を見たときに住宅団地の中でも大きく人口が減少している団地と、あまり減少していない団地の差があれば、今後の方向性を検討する際の材料となると思う。将来人口推計については、市全体の平均値を用いるのはどうかと思う。

嘉名委員：私もこれまでの市街地の人口の変遷を追っていくべきと考える。資料5の2ページに市全体の人口推移が示されているが、この時期にどの住宅団地ができたという時系列でまちの変化を示すことができればよい。古い住宅団地で高齢化が進む傾向が見られるなど、これまでのトレンドを見ていくことで、ある程度、将来の予測ができるのではないかと。伊勢委員がおっしゃるように、市平均値を用いて将来人口推計をとると正確な推計とは言いがたい面もあるが、小地域別に変化率を設定するとデータが暴れるので、それを補完する方法として過去を振り返る視点が必要であると考え。これまでのデータを詳細に分析することで将来推計に活かすということを検討していただきたい。

水野委員：今後、居住誘導区域の設定を検討していく際に、将来人口推計などのデータから検討する方法があるが、一方で、居住の集積をどのように維持していくかと

いう視点では、一律の居住誘導区域を設定するのではなく、例えば、環境共生型の居住誘導区域であるとか、エリア毎の暮らし方によって、居住誘導区域を細やかに設定していくことが必要であると考え。ニュータウン、集落部などの居住区域のかたまり毎に、それぞれのエリアの現状、特徴や魅力を踏まえた暮らし方を提案していくにあたって、定性的なデータが示された方がよいと考える。

嘉名委員：居住エリア毎の定性的な分析を行い、それに対応した課題を踏まえ、将来の居住誘導区域のあり方を検討すべきというご意見であるかと思う。単に人口密度を上げるという方針を示しても、実際には魅力がないと人が住んでくれない。そのあたりの手がかりをつかむためにも、分析が必要であると思われる。総合計画、都市計画マスタープランでも、エリア毎の分析をされていたと思うが、それらを活用しながら、立地適正化計画の視点も入れて検討してはどうか。

事務局：居住誘導区域に入れるか入れないかの二元論だけでは難しいと考えている。他都市の立地適正化計画においても、市街化区域の中で居住誘導区域を小さく絞る場合に、居住誘導区域の外側に市町村独自の区域設定により、環境を維持するエリアや、歴史的景観を保全するエリアなどを定めている事例や、居住誘導区域をあまり絞らずに、誘導区域の中で特色を持たせている事例がある。地域毎の特性について、一定、まとめておく必要があると考える。

青木委員：65歳以上の高齢化率の人口割合が示されているが、実際には65歳くらいの方のうち介護が必要な方は少ない。そのため、後期高齢者の割合を把握してはどうか。また、要介護認定者数の推移を見ていくと、医療や福祉が地域でどの程度必要とされているかという状況が見えてくると考える。

嘉名委員：高齢者が65歳以上という定義は早すぎるという議論もある。後期高齢者と前期高齢者は分けて考えた方がよい。65歳以上の高齢化率が高くて大変だということに見えるが、実際には元気な方も多い。介護が必要な方の数を把握するためには、福祉関連のデータを把握しておく必要がある。

事務局：市の福祉部局では、介護施設の配置を検討する際に、介護が必要な方がどの程度いるかという検討を行っているので、それらの資料を活用することを検討する。

井戸委員：以前は、市内に日立造船、新日鉄の社員が入居する団地があり、バスも多く運行していた。現在は企業の社宅が減ったことで人口が減少しているという原因が一つある。また、もともと住まわれている方も高齢化している。これまで市が目標としてきたところが良かったのか、悪かったのかを検証するというのが大きな話としてあると考える。近年、和泉市は工業の誘致、人口の増加により、

泉ヶ丘、光明池、和泉中央のまちが変わってきており、成功事例として学ばなければならない点が多いと思う。桃山学院大学の周辺も、かつては空き地が多かったが、住宅も増え、空き地がなくなってきている。大阪市内などから、和泉市に移転する企業も多く、河内長野市内から和泉市内へ通勤する方も増えている。市内で昼間に働く人口が減ると、バスの本数をますます減らさざるを得なくなるので、そのあたりを危惧している。

嘉名委員：産業の視点での分析を追加してほしい。また、居住者のライフスタイルを分析しないといけないと考える。美加の台などのニュータウンでは、自宅から駅前まで、車で送迎するキスアンドライドがよく見られるが、かつてはニュータウンは、専業主婦と夫という組み合わせで成り立っていた。しかし、今はそれでは立ち行かなくなり、共働きの世帯が多くなっている。和泉市は働く場所が多いという点からも居住地として選ばれている側面がある。一方で、河内長野市は住環境では劣っていないと思うが、働く場を選択する余地が少ない。今後は、住環境だけを維持していれば大丈夫という考え方では危ないと思う。事務局の案でも「暮らし続けられる」という言葉があるが、「住む」だけではなく、仕事をする場も含めて「暮らす」という言葉を用いていると捉えられるので、働く場の視点も検討していただきたい。現況の資料として、労働人口、市域内の就業人口、企業立地の状況など入っていないので、そのあたりを分析してはどうか。

井戸委員：和泉市は大規模商業施設が立地しており、パートの単価も高くなっている点からも、働く場として有利な状況であるかと思う。

嘉名委員：災害の視点で「浸水想定区域」「土砂災害警戒区域」は示されているが、市内に密集市街地はないのか。

事務局：法的に位置付けられる密集市街地はない。ただし、大阪府の「災害に強いすまいとまちづくり促進区域」に定めるエリアとしては、河内長野駅前、三日市町駅前が該当している。

嘉名委員：都市基盤が不十分な市街地については、将来、市街地整備の中で解消していくという考え方もあるし、人口を誘導していく地域として適切でないという考え方もある。脆弱な市街地の分析は一つあってもよい。4m未満の道路割合などの項目は見ておくべきかと思う。

嘉名委員：ある都市では、将来的に人口が減少してくると鉄道が廃線になるかもしれないということを想定して、その場合にどのような手当てをするのかということを検討している。立地適正化計画としてはそうならないようにすることが目的ではあるが、計画がうまくいかなかった時にどうするかという想定はしておくべきと考える。計画の表側には出てこないかもしれないが、人口が減少した場合

や、公共交通が維持できない場合、このようになるということの項目出しくらいはしておくべき。例えば「こういうことがうまくいかないと、こういうことが起こる」など、起こしたくないこととして、市は想定しておくべきかと思う。必要があれば会議を非公開にして一度、議論してはどうか。

水野委員：資料5「まちづくりの方向性（案）」では、「鉄道駅周辺」という言葉が出てくるが、鉄道駅以外では、幹線道路の沿道でも商業機能などが立地している。拠点としての位置付けなどを見据えて、幹線道路沿道にすでに商業施設が集積していることに対する市の考え方があれば教えていただきたい。

事務局：鉄道駅周辺と書いているが、あくまで一つの例であり、例えば都市計画マスタープランで位置付けている南花台の「丘の生活拠点」を都市機能誘導区域に設定できないかということも今後、議論したいと考えている。幹線道路沿道については、ご指摘の通り、外環状線沿道で機能の集積が見られる。その中で市役所周辺は一つの拠点として位置付けることを検討しているが、外環状線沿道の全体については、これまで市では積極的には評価してこなかった。今回の委員会でご議論いただいた上で、実際に多くの機能が集積している状況も踏まえて、積極的な位置付けをすることもありえると考えている。

嘉名委員：沿道の位置付けはいくつかの考え方があるが、他都市の事例では、大型商業施設の都市計画提案が出てきた際に、市の都市計画マスタープランに位置付けがなかった。都市計画審議会においては、市としてはそれを拠点として位置付けるものではないが、立地することについては特に問題ないということになった。なぜ商業施設を位置付けないかという、都市計画で位置付けるということは10年後もそこに機能を維持するという側面が出てくるが、商業は10年後もそこに立地し続けるかということとはわからないという見方で、当面の土地利用として、そこに商業が立地していることに位置付けは必要ないという考え方である。反対に、10年間だけであってもそれが重要なものであれば位置付けるという考え方もあり、その判断は自治体次第であると思う。これまで、河内長野市では外環状線沿道を商業軸などに位置付けておらず、機能の誘導をしてこなかったが、現状ではそうなっているということであると思う。ただし、実態として商業が立地してから、長い時間が経っているので、位置付けを考えてもよいかもしれない。計画において商業は駅前だけであると位置付けると、あまりに実態と乖離し、計画への信頼性がなくなるということもあるかと思う。

事務局：「コンパクトプラスネットワーク」の考え方を念頭に、沿道を拠点に位置付けるのであれば、公共交通のアクセスを確保する必要があると考える。外環状線沿道の施設は基本的に車での利用を想定しており、市民からもバスの要望があるが、交通事情の面からバスを走らせることが難しいこともあり、拠点として扱

うことが良いか悩ましいと考えている。公共交通で利用する拠点とは別に、車で利用する拠点を位置付けるということも考えられるのか。

嘉名委員：立地適正化計画では、公共交通を利用する方が優先という考え方はあるが、交通では分担率という考え方があるので、自動車による拠点の考え方があってもよいのではないかと考える。あるいは、自動車でのアクセスが便利すぎるために公共交通が成り立たないということもある。市内の住宅団地においても、例えば美加の台の東側など公共交通でカバーできていない範囲もある。車を利用してアクセスできる人は車で暮らしてもらうという考え方があっても構わないと思う。

伊勢委員：公共交通と都市構造は一体であるべきと考えている。また、少し質問の答えから離れるが、都市機能の種類別に立地を見るだけでなく、施設を重ね合わせた資料があるとよい。高齢者が公共交通の利用が億劫になる理由として、乗り換えが多いことや、バスの拠点間が離れすぎているために移動に時間がかかることなどが挙げられる。そのため、都市機能が立地する拠点は集約すべきと考える。ただ、現状で何もないところに集約するよりは、ストックを活かすべきであるので、例えば、病院と商業施設の近接状況などが1枚でわかれば、拠点に位置付けるべきところが見えてくる。そうすると、機能が集積しているところにはバス利用の需要のポテンシャルが見込まれ、バスを通した方がよいといった議論ができる。鉄道駅を拠点とする都市計画マスタープランの考え方はよいが、立地適正化計画ではサブ拠点を提案する必要があるので、そういったデータを示してはどうか。今後、都市機能の集積状況を見て、どこまでが歩いて行ける範囲と見なせるかなど、議論することが考えられる。

嘉名委員：都市機能誘導区域の設定はいくつかの形が考えられるが、これから雇用創出の場を確保する必要があるということも踏まえて、都市計画マスタープランで示す「活力創造ゾーン」をどう位置付けるのか検討していく必要がある。あわせて、幹線道路の沿道も含めて施設がどこに集積しており、どこを拠点として位置付けるのがふさわしいか、また拠点をどう色分けするのかについても、現状とリンクさせて考えていく必要がある。

伊勢委員：バス路線があっても、拠点にたどり着くまでに30分以上かかるというところは利便性に欠けるので、拠点までのアクセシビリティについてもあわせて見る必要がある。

嘉名委員：資料5の4ページに、小学校区別の将来児童数の推計が示されている。市内にはニュータウンだけの小学校区と市街化区域と調整区域が混ざった小学校区がある。調整区域が混ざった小学校では、児童数の維持が課題となっている。児童数の維持とあわせて、居住誘導区域を考えていく方法がよいと考えている。

例えば、現状の将来人口推計では、美加の台小学校は維持できないということになっているが、インフラが整っているところについては、居住を誘導することで小学校を維持していくことが望ましいという考え方もある。

井戸委員：今後、人口が10万人を割るということを聞いているが、その時に想定される税金はどうなるのか。市民一人当たりにかかる予算が減少するのか。

事務局：人口が減少した場合の税金について、市ではシミュレーションをしている。どうすればそれに歯止めをかけられるかということで、例えば働く場を増やし、企業にも多く残ってもらい、法人税の税金を増やすなどの取組みも必要であると考えている。

嘉名委員：図3-6、3-7ではアクセシビリティと人口増減率が示されている。河内長野駅前、三日市町駅前あたりではアクセシビリティが高いにもかかわらず人口が減少する見込みとなっている。住んでもらうべきところ、土地利用を有効に活用すべきところが、現状のままでは有効に活用できないということが示されている。この問題意識がまちづくりの方向性（案）の「鉄道駅周辺」という文言に反映されているかと思う。

事務局：利便性の高い駅前が人口減少にならないように施策を打っていく必要があると考えている。また、現状で機能があるところに人口を集めることが有効であり、都市機能誘導区域は居住誘導区域の中に定めるので、駅周辺はまちなか居住の考え方で居住の誘導を進めていくという方針を考えている。高齢化が進む中で、高齢者がまちなか居住により、近くで福祉施設を利用できるなど、利便性、安全性を高めていく取組みを考えている。

嘉名委員：本日出していただいたご意見を振り返ると、伊勢委員からは路線バスの件、くすまる、道の駅の追加という意見、これまでのまちの形成過程という意見、公共交通の拠点へのアクセシビリティと拠点への機能の集約に向けて都市機能がどう集まっているかを分析すべきという意見、水野委員からはエリア別の分析と、外環状線の沿道を商業の拠点に位置付けられるかという点、青木委員からは福祉関係のデータ、井戸委員からは周辺の成功事例を参考にしてはどうかという意見と産業の視点で労働人口もこれからのまちづくりで必要という意見、そして私からは、計画がうまくいかなかった時の最悪のシナリオを想定した方がよいという意見などがあつた。

嘉名委員：他にご意見がないようなので、本日の意見交換はここまでとする。

7. 閉会